

市政懇談会開催記録概要【吉田町】

地域づくり・行政

【地域づくり】

・地域自主組織

Q	吉田町における地域自主組織の設立状況を教えて欲しい。また設立は行政主導で行われるのか。
A	田井地区においては既に自主組織が設立されています。吉田地区については昨年度自治会長会での協議の中で、もう少し地区割りを細かくしたほうがよいという意見や準備会の委員の選出の仕方についての意見をいただきました。これらを踏まえ、準備会委員及び行政内部で検討し、設立のための準備を進めている段階です。設立までもう少し時間をいただきますが、ご理解ください。

・地域振興補助金

Q	地域振興補助金については3年間、5年間という補助期限年数が定められている。期間中補助金をもらい、期限が切れるとグループが消滅するというようなことがあってはいけないと思う。グループが補助金の交付を受けなくなつてからの市の対応、関与はどのようにするのか。
A	3年後、5年後、まちづくりグループ等に対し市役所が一体となり、財政面以外で支援を続けていきたいと考えています。
Q	地域振興補助金は申請した内容に基づいてしか支給できない。年間を通じいろんな状況の変化が生じてくる。これに対応できる弾力的な助成制度とならないか。
A	いろいろなケースが想定されますので、そうした際には総合センター等と都度協議していただきたいです。地域振興のきっかけとなる助成制度でありますので、市としても弾力的に対応していきます。

【防災・防犯】

・7月豪雨災害

Q	今回の豪雨で自主避難をされた世帯があった。田井地区については田井小学校、ふるさとセンターが指定されたが、緊急を要する場合、上山地区等からすれば適切でないと考ええる。例えば自治会集会所等に避難場所を設置するなどの対応ができなかったか。
A	17日時点で明るいうちに自主避難していただくことを想定し、学校等を自主避難場所に指定しました。また、今回は市職員が避難所へ張り付くことを前提とした設置でした。今後は職員がいなくても避難所の確保が出来る体制を検討していきます。同時に、自治会や自主組織の中でも検討いただきたいと思います。

【行財政】

・財政健全化

Q	日本全体で考えると、国民1人あたりの借金が700万円と聞く。雲南市においても財政難解消のための経費の削減等についてはしっかりとした気持ちで取り組んでほしい。
A	財政難解消については、事業の検討・見直しを進め、真に有効かつ必要な事業への予算執行を行っていくなど、行財政改革に努めていきます。
Q	中期財政計画において平成22年度は平成17年度に比べ普通建設事業費が約70億円減ることになる。こうしたことを含め財政難解消に向け、市民の理解を得るための働きかけをするのか。
A	現在もいろいろな機会に、財政難解消のためのご理解・ご協力を市民の皆さまにお願いしています。今後も引き続き行財政改革を進める中、様々な形で、皆さまへも状況説明するよう努めていきます。

・基金運用

Q	基金の運用方法について教えて欲しい。
A	雲南市基金条例において適切・確実な運用方法が定められています。雲南市では定期預金で運用し、今年度から一部国債(3億5千万円程度)を買っています。

・施設管理

Q	公営住宅や旧診療所(吉田町)など公共の建物が老朽化し、また、今年の雪害で損壊している。これら建物の整備、取り壊し等の計画はされているか。
A	これらの建物については、できるだけ早期に計画的に対応したいと考えています。旧下町住宅(吉田町)については下水道の処理場の発注にあわせ取り壊す予定です。旧診療所については、修繕、損壊部分の取り除き、取り壊しと3つの対応策を検討中です。しかし、6月時点での財政措置は厳しい状況です。引き続き吉田総合センター、財政課、管財課で対応協議をしていきますので、もう少し時間をいただきたいです。
Q	議会開会中、木次図書館の駐車場が車がいっぱい使えない。図書館専用駐車場の確保をお願いしたい。
A	議会と相談し、議会中も図書館利用者用駐車場を確保します。
Q	学校補助金が減らされ校庭の維持等大変となってきている。これに対する教育委員会の考えを聞かせて欲しい。
A	財政難により厳しい予算配分となっていることについてはご理解ください。そうした中、特に小規模校について、ご指摘のように負担が増加していることも承知しています。除草等の経費についてはなんとか確保していきたいと考えていますので、地域の皆様にも引き続きご協力をお願いします。

・インフラ整備

Q	今後のインフラ整備について、雲南市の中心部程度の充実を早期にお願いしたい。
A	インフラ整備については、道路、上下水道の整備に力を入れ進めていく考えです。

・予算編成

Q	加茂町、木次町、吉田町のまちづくり交付金事業の予算配分はどのようになっているか。
A	加茂町1億5千万円、木次町6億5千万円、吉田町1億3千万円となっています。吉田町の18年度事業は17年度繰越事業もあわせ、堀越線電線地中化、小路のカラー舗装、修景助成の3事業です。

・公債費

Q	マスコミの報道によると雲南市の債務残高が平成16年度一人当たり120万円程度で全国の市の中で5位とされているが実情はどうか。
A	現時点では平成16年度の決算が最新となりますので、これに基づき回答いたします。平成16年度末時点での債務残高は約565億円。これを一人当たりへ換算すると約123万円となります。これは県内8市の中で最も多く、29市町村の中では18番目です。松江市、出雲市などは元々中核となる市へ周辺の町村を取り込み合併しており、人口が多いです。そのため1人当たりの債務残高も抑えられています。対して雲南市は、6町村が合併しており、そのうち4町村で過疎債を多く発行していたため、必然的に債務残高も多くなっています。雲南市の有形固定資産の割合を見ると、土木費(31.9%)、教育費(27.5%)の占める率が高くなっており、合併前より道路整備、施設建設などの財源として起債してきたと考えられます。これからは中期財政計画に従い、行財政改革を確実に実践し、債務残高の抑制に取り組んでいく必要があります。

【広報・広聴】

・ケーブルテレビ放送

Q	議会の質問順や質問時間、内容等について関心を持って見ておられる方が多いと思うが、テロップを利用しケーブルテレビを放映する考えはないか。
A	質問順序など、時々字幕を入れて放映されているが、もう少し活用方法を検討し、きめ細かく放送することよう努力します。

【その他】

・定住

Q	定住対策の施策としてどのような取組みがあるか。
A	本年度定住推進員を1名から2名に増員し支援体制の強化を図っています。また市ホームページに定住支援情報コンテンツを作成し、空き家情報、求人情報などの情報発信を行ったり、電話・面接による定住相談を行ったりしています。

産業・情報

【農林水産業】

・林道改良

Q	林道民谷つづら畑線の事業休止について、財政難は理解できるが、このまま終わるのでなく継続実施をしていただきたい。
A	民谷つづら畑線は、民谷を起点とした全長4.4kmの林道で、平成12年度に着工したものです。しかし、着工後民谷周辺の道路事情が改善されていることもあり、現在は工事を休止しています。完了までに約2億円程度かかる見込みであり、来年度まで事業休止が決まっていますが、その後なんとか工事完了したい考えです。

・農業振興

Q	農業振興の面では、後継者対策が図られておらず、今後農業を継続できるのか、また、農地の荒廃等不安である。今後もこの傾向は強まると思うが、農業の経営改革についての考え方を聞かせてほしい。
A	産業振興センターを設立しましたが、農業面においては県職員OBの方をアドバイザーに招き、助言をいただいています。雲南市としても担い手振興室を設置し検討をしています。今後の農業経営のあり方として集落営農組織がふさわしいと考えています。また、雲南地域としても雲南市・奥出雲町・飯南町で雲南地域担い手育成総合支援協議会を立上げ、集落営農組織等担い手の育成を検討しています。
Q	今回の豪雨災害について、道路等の対応については引き続き強力で進めていただきたい。同時に農地についても甚大な被害があり、このままでは農業に対する意欲が失われていく。今後の農地災害の対応について聞かせて欲しい。
A	吉田、掛合両町で多くの農地被害が出ています。今後、復旧に要する金額を査定することになりますが、受益者に負担していただくことも考えられます。なるべく負担の軽くなるような対応を検討していきたいです。
Q	中山間地直接支払いにおいて、島根県内で190程度の集落がマスタープランを立てられず、制度の導入をあきらめられたという新聞報道があったが、雲南市の状況はどうか。また、限界集落の状況はどうか。
A	雲南市では、全体で334集落となり増加しました。加茂町で新たに制度の導入がありましたが、木次町では1団地1haが制度導入できず、5集落程度減っています。今年度を含め5年間の事業ですが、農地等の荒廃が進まないよう市としても努力していきたいです。限界集落については高齢化比率等含めて把握しておりません。今後しっかり現状把握した上で、対応していきます。

・林業振興

Q	雲南市において農業は基幹産業であると考えているが、現状は中山間地直接支払い交付金等で農地を維持するのが精一杯である。以前は農業収入を林業による収入で支えていたが、林業による収入も見込めない状況では中山間地の農業は本当に厳しい。今回市から説明のあった施策の中には林業に関するものがない。林業施策の展開について聞かせて欲しい。
A	林業情勢については全国的な課題となっています。農林業の振興については平成19年度から品目横断的経営安定対策など新しい農業施策が展開される予定です。雲南市においても農林業振興協議会を立上げ農林業の振興施策の検討を行なっています。林道の整備についても指摘をいただいておりますが、時間はかかりますが、取り組んで行く考えです。また木材の価格低迷は需要の少なさに起因するところが多いので、こうした観点にたった林業施策にも取り組んでいく考えです。

・畜産振興

Q	上山の繁殖和牛牛舎は100等規模と聞いているが、何年後に完成となるか。また、牛舎完成後の経営の考え方は。
A	牛舎については昨年度50等規模が既に完成しており、本年度残りの50頭部分を完成させます。機械・器具を整備する必要もあるため、最終的に施設全体が完成するのは20年度の予定です。経営方法についてはJA及び生産農家の方と協議中ですが、牛舎については指定管理者制度の導入を検討しており、そうなれば指定管理を受けられた団体の考えで経営が行われるようになって考えています。

【商工業】

・企業誘致

Q	誘致企業の撤退、JA等事業所の人数も少なくなり寂しい思いがしている。中心部の発展はもちろんであるが、周辺部への配慮も同様をお願いしたい。
A	撤退された誘致企業の操業再開について、雲南市として働きかけを行っていく考えです。全ての市民に合併して良かったと感じてもらえるような市政運営に努めます。

Q	バイオマス関係企業の誘致の話しを聞いたことがあるが、現在はどのような状況になっているのか聞きたい。
A	バイオマスは重要なエネルギーと考えてます。以前大阪の関連企業より、雲南市への進出申し出があり誘致について検討を行いました。しかし雲南市の考える誘致企業の条件と上手く合致しなかったため、誘致企業としての認定を見送ったところです。現在、油燃料の高騰などの問題も大きくなっており、同エネルギーについて、引き続き検討して行きます。
Q	公共施設で稼働率の悪いものや休止中のものについて、事業所等へ事務所として貸し出すなどして、企業誘致を図り、産業振興に結び付けていく考えはないか。
A	市内には空き工場や空き事業所が多数あり、現在、産業振興センターで台帳整備を行っているところです。公共、非公共に係わらず遊休施設の有効活用については積極的に取り組んでいきます。

【情報化】

・携帯電話

Q	携帯電話の不通エリア対策は。
A	携帯電話受信不能地帯については、雲南市内では7箇所であると把握しています。移動通信用鉄塔施設の整備を進めるためには、携帯電話事業者の事業参画が必要であり、各事業者は事業地区の採算性を考慮し参画を検討しています。昨今の状況として、各社とも新方式への移行に力を注いでおり、新たな事業参画は難しい状況にあります。しかし雲南市としては、引き続き各事業者へ要望していきます。

教育・文化

【学校教育】

・しつけ教育

Q	小学校で英語教育を行う必要性はあるのか。それよりもあいさつなどの教育が必要でないか。
A	しつけ教育、日本語教育をしっかりと行うことも重要であるが、同時に国際化社会に対応する為の英語教育も必要であると考えます。実施にあたり教育委員会などの教育部門でしっかりと検討を行なっているところです。

・通学路

Q	上山地区に通学路がある。簡易舗装が施されているが、荒れてきたため、以前3分の1程度を補修してもらった。残部分についても保有要望したところ、生コンを提供するので地元で整備をお願いしたいとの回答を得た。生コンを提供してもらっても地元では対応できない。何とか市で対応してもらえないか。
A	総合センター事業管理課で対応を検討します。

・学校統廃合

Q	田井小学校の児童数が激減してきた。ある程度の人数がいないと生き活きた活動が出来ない。中学校でも、生徒が少ないため部活の種類が少なく、自分が興味を持っている部を自由に選択できない。そうした問題解消のため、学校統合等の話しが進められているのか。
A	今年度から学校の適正規模、配置について検討を進めることにしています。この検討会の中で状況を確認し、今後の対応について考えていきます。部活については、吉田中学校に限らず、希望の部に入れないという状況があります。早急に対応することは難しいですが、何校かが合同で部活を行うなどの方法を検討していきます。

【社会教育】

・子どもの居場所づくり事業

Q	子供の居場所づくり事業について、国からの補助金がなくなった場合でも事業継続を検討しているのか。
A	居場所づくり事業については3年限りの補助事業です。居場所づくり事業は文部科学省、類似事業の放課後児童クラブは厚生労働省で行われているものです。今後の事業展開について両省間で協議が行われており、雲南市としてはそれらの今後の動向を見て継続を検討していく考えです。

・全国大会参加助成制度

Q	雲南市においてもスポーツの全国大会参加助成制度があるが、助成金の支給は大会参加後となる。参加資金運用などの利便性を考慮し、参加前に激励金として支給出来ない
A	参加助成の方法については出来るだけ早期に支給できる方法を検討していきます。

生活・環境

【健康・医療・福祉】

・地域医療

Q	雲南病院において麻酔科の先生がいないと聞くと、それでは緊急のオペができない。この問題について雲南市としてどう考えるか。
A	現況を述べますと、週1回、他の病院から麻酔科の医師に来て頂いています。緊急の手術については麻酔科の先生がいれば雲南病院で対応するし、いない場合であれば中央病院等で行うというように臨機応変に対応しています。また、雲南病院は内科の医師不足問題も抱えています。雲南病院の管理者(雲南市長)として、これらの問題について早期に対応したいと考えています。

【交通・道路】

・市民バス

Q	広域バスを利用し他町から吉田に来られても「菅谷たたら山内」などの観光施設へ行く手段がない。そうした交通の便を確保してほしい。
A	合併1ヶ月前から広域バスを運行し、6町間の往来を可能にしました。今後は広域バスと域内バスの連結を考慮した運行を考えていきます。吉田町にある鉄の歴史村関連施設やまち並み等の活用が、吉田町の活性化につながると思いますし、具体的活用策を練ることが今後の課題であると考えています。
Q	市営バス民谷線において、最寄りのバス停まで、数km離れている地区がある。高齢者がバスを利用する際、大変苦勞している。そうした地区にも市民バス路線を拡大してほしい。
A	スクールバスの住民利用の可能性と掛合町で行われているデマンド型のバス運行方式の導入について検討するとともに、今年度のバス対策協議会において、今回の要望を参考とし、協議していきます。

・7月豪雨災害対応

Q	小木大宝線の早期に復旧させて欲しい。
A	小木大宝線については現状復旧しました。
Q	今回の豪雨で小木の橋がもう30cm程度で水没するような状況になり通行止めとなった。通行止めとならないような橋の架け替えを要望する。
A	橋の架け替えについて、早期の対応は困難ですので、今後財政状況を踏まえながら、検討していきます。